

# 鶴が丘だより

2018年度第1回

家族教室・講演会

親なきあとを

今日考える

それぞれの立場から

今月は、9月1日に開催した講演会の模様をお送りします。

## ① 医療機関の立場から 院長 後藤 晶子

みなさん、こんにちは。このテーマは年々、関心が高くなっています。2025年には団塊の世代が75歳となり、医療の必要な人口が急増するといわれています。同時に、親なきあともまた大きな課題となります。

### I. 自立の3要素

「ちゃんとして生きていけること」とは？自立を要素に分けて考えてみましょう。

#### 家族も本人も心配すること

- ・ちゃんと「ひとりで生きていける」か。
- ・「生きていける」とは？
- ...誰か支えになる人はできるか。ゴミ出しなど家の管理ができるか。火の元やお金の管理は大丈夫か。具合が悪くなったらどうするか。

#### 自立の3要素

- ・経済的な自立
- ・精神的な自立
- ・日常生活の自立



・経済的な自立  
遺産の信託や成年後見など非常に大きなテーマで、今後別途機会を設ける必要があります。

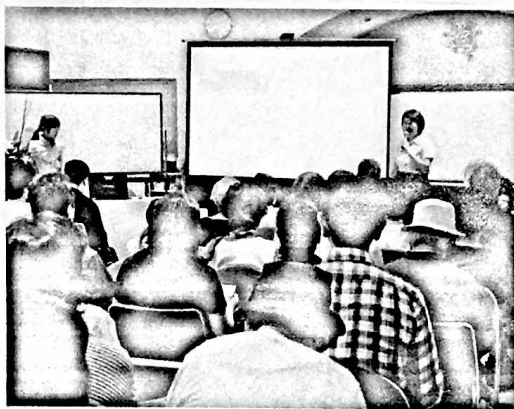
・精神的な自立  
病気の有無にかかわらず、私は「実際に親がなくなるときの日だ」と思っています。

・日常生活の自立  
実は最も難しく、特に思春期以降、家庭だけで習得するのは不可能に近いと思

います。それはなぜか、考えてみましょう。

### II. 成長発達過程における家庭の役割

幼少期の成長の場は家庭で親が中心です。青年期では、成長の場が社会となり、癒しの場となる家庭で両方を行うことは難しいのです。そのため、早い時期に一時的でもよいので家庭と離れる機会を作る必要があります。



### ある日の 鶴が丘

親なきあとアンケートの御礼

今回の家族教室では、親なきあとをテーマに取り上げました。

これに先立ち患者様や御家族様向け当日の参加者向け、院内職員向けのアンケートを実施いたしました。

それぞれの立場で回答にご協力いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

アンケート結果を踏まえ、新たな取り組みを行ってまいります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

※アンケート結果は後日、改めてご報告いたします。お待ちください。

